

目指す学校像	「豊かな心を持ち、互いに認め合う児童の育成」かしこく(進んで学ぶ子)やさしく(素直で明るい子)たくましく(体をきたえる子)一生懸命に(よく働く子)
--------	---------------------------------------------------------------------------

重点目標	1 個別最適化による学ぶ意欲の向上、地域と連携した体験活動の充実 2 細やかな教育支援、教育相談、安全・安心な学校生活の充実 3 よりよく生きようとする豊かな心をはぐくむ教育と学校行事の充実 4 チーム東宮下として教育活動に取り組む組織づくり。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日 令和6年2月16日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・算数ともに全国、市平均を下回る結果である。 ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ全教科で総じて高い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、無解答率が全国や市の平均よりも下回っている。特に国語の「書くこと」及び算数の「数と計算」等、主に基礎的な学力の定着に課題が見られる。また、正答率は二極化傾向が見られる。 ○国語や算数への学習意欲は高いが、問題の意味を理解する読解力や論理的に考える思考力が課題である。	・個別最適化による学ぶ意欲の向上 ・地域と連携した体験活動の充実	①デジタル教材等を活用し、児童の基礎的な学習を反復して取り組む時間を設定し、一人ひとりにあった目標をもって学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査について児童が自己採点を行い、自らの学習状況を把握できるようにする。 ③課題意識を大切にすることで学びに対する意欲を高め、自力解決につながる授業展開をする。	①1～6年の国語・算数2学期末まとめテストにおいて、平均正答率が70%以上となったか。 ②自己採点の結果をもとに自らの学習状況を認識し、目標を立てることができたか。 ③学校自己評価に係る児童アンケート「児童のタブレットの学習活用に関する項目」の肯定的な回答の割合が85%以上となったか。				
		・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・教育相談に向けた校内体制の充実	①総合的な学習の時間を通じて地域の豊かな自然を生かした体験的な学習活動として、全学年において稲作や野菜の栽培を実施することで、土や自然に触れる感動を味わわせる。 ②教科等の学びを深めるICTを活用した授業を実践する。	①学校自己評価に係る児童アンケート「児童の総合的な学習の時間への取組に関する項目」の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②全教員が教科等の学びを深めるICTを活用した授業公開を行ったか。				
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均を上回った。 ○昨年度、救急車を要請したけがは0件であったが、雨天時の校内で走るなどを原因とした打撲等のけがが多く発生した。 (課題) ○児童一人ひとりの家庭の状況の変化を含め、的確に把握し、組織的に支援・相談にあたる。適切に外部機関と連携する体制に課題がある。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・安心・安全な学校生活の充実	①「心と生活のアンケート」や本校独自の「お話タイム」等の面談の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握し、適切な教育相談を行う。 ②要配慮児童について校内委員会や生徒指導部とICTを活用しながら、情報交換を密にし、SC、さわやか相談員、SSW、他機関等と連携し、迅速に対応する。	①学期に1回実施している「心と生活のアンケート」について、3～6年の「信頼自己」の数値(A・Bの割合)を向上させたか。 ②学校自己評価に係る教職員アンケート「児童一人ひとりへ教育支援・相談に向けた校内体制に関する項目」の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。				
		・豊かな心をはぐくむ学校行事の充実	①情報端末を活用し、校内におけるケガの発生場所、件数、原因などを分析し、教職員や児童が結果を共有できるように視覚化し、年間掲示する。 ②交通安全教室や防犯教室・避難訓練等安全に関連した学習活動や児童朝会、学校保健委員会を通し、安全や健康に対する児童、保護者の意識を高め、けが等の来室児童数を減少させる。	①学校自己評価に係る児童アンケート「教員による児童への安全指導に関する項目」の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②2計画的に体験的な学びの場を設け、児童が安全な生活の実現に向けて十分な安全教育の指導が行われたか。				
3	(現状) ○昨年度、学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくことを共有した。 (課題) ○昨年度までの学校評価から、学校に協力する家庭の意識に多少の差がある。 ○今年度は、学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域に広め、地域全体で児童の育成にあたる体制づくりが課題である。	・あいさつあふれる東宮下小地域に向けた取組	①開校45周年行事をPTAと協力して安心して参加できるよう配慮し、本校の独自性が出るようにする。 ②本校のHPに学校運営協議会及び学校行事の取組を発信するページを作成し、地域・家庭とめざす児童像等を共有できるようにする。	①関係する方々と情報共有をし、共同して取り組むことができたか。 ②学校自己評価に係る保護者アンケート「保護者や地域は、学校教育への参画に関する項目」の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。				
		・チーム東宮下として教育活動に取り組む組織づくりと働きやすい職場の構築	①学校運営協議会を学期に1回実施し、目指す児童像を共有するとともに、地域に広めるための具体的な取組について周知し、参画してもらう。 ②相手と目を合わせて心のこもった挨拶ができるよう、講話や登校指導、児童会のあいさつ運動を実施する。	①学校自己評価に係る教職員アンケート「保護者、地域、コミュニティスクールの連携に関する項目」の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校自己評価に係る保護者アンケート「児童のあいさつに関する項目」の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。				
4	(現状) ○ICT機器の活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○全学年一部教科担任制実施により、各教員の専門性を生かした教科指導を行うことができてきた。 (課題) ○ICT機器の活用について、個々の教員間の取組を共有することで、更に活用が進むと考えられる。	・チーム東宮下として教育活動に取り組む組織づくりと働きやすい職場の構築	①学年・学級を超えて迅速かつ正確な情報共有と組織的対応ができる高信頼性集団の基礎を構築する。 ②年間を通して、ICT機器の活用方法について、教員間で共有する研修を実施する。	①学校評価に係る教員アンケートにおいて関連する項目の肯定的な回答も割合が80%以上となったか。 ②ICT機器を効果的に活用した授業実践事例を共有する場を構築するとともに活用促進を図る場を設けることができたか。				